国際公開講座2019「日本を知り、世界を知る」開催事業

渡　辺　麻里子[1]

はじめに

今年度も2019年11月3日（日）に、「文化の日は、弘前大学へ行こう！」をキャッチフレーズに、弘前大学人文社会科学部　国際講演講座2019「日本を知り、世界を知る」を実施した。本事業は、平成31(2019)年度公益財団法人青森学術文化振興財団の助成金（公開講座）の交付を受けて実施したものである。以下、事業内容を報告する。

1．背景と目的

青森県では、市民がアカデミックな講座を受講できる機会がまだまだ十分とは言えない。機会があれば専門的・学術的知識を得たいと考えている市民は多くいる。すでに開講されている市民向け講座も、人文学分野の講座はあまり提供されていないのが現状である。こうした状況に対応し、市民への学びの場を提供するため、2013年度より、弘前大学人文社会科学部では、「国際公開講座2013（以下各年）　日本を知り、世界を知る」という国際公開講座を開催してきた。年々来場者は増え、近年は、100名を超えている。

この講座は、高校生からシニアの方まで、幅広い年代層が集まっており、弘前市内に留まらず、青森市・八戸市など、県内広域から（また秋田からも）お越しいただいている。つまり弘前に限らず広域から、世代を超えたニーズがあるのである。

そこで本事業は、人文学の最先端を、わかりやすく市民に伝えることを目的として講座を開催する。また内容も、津軽・青森に関する研究、日本に関する研究、海外の研究の三種類から組み立てる。文化の日に、津軽や日本、そして世界の文化や歴史に関する最新の研究成果を知ってもらおうという企画である。哲学・文学・歴史など、いわゆる「人文学」研究の最前線に立つ研究者が、研究の方法や内容など、最先端の研究を市民にわかりやすく解説し、日頃の研究の成果を、市民に還元することを目的として実施する。

また、海外の研究者をお招きし、海外における日本研究を紹介してもらい、私たちの視野を世界に広げてもらう企画である。

2．実施内容

今年度は、2019年11月3日（文化の日）に、弘前大学創立50周年記念会館2階・岩木ホールにて開催した。毎年、サブテーマを設けるが、今年は「人文学で／人文学を探求する」をテーマに、4名の人文社会科学部教員による講演と、台湾から1名の外国人研究者を招聘して特別講演を行った。当日の来場者は133名で、2018年の111名を大きく超えた。

講演の題目と講演者は以下の通りである。

[1] 弘前大学人文社会科学部教授　地域未来創生センター副センター長

〔講演１〕『ジェイン・エア』の「著者」は誰？
畑中　杏美（弘前大学人文社会科学部　講師）
〔講演２〕　日本中世の〈うらない・まじない〉世界
—天寿は占えるのか?!—
原　　克昭（弘前大学人文社会科学部　准教授）
〔講演３〕北日本の縄文文化を深く知ろう
上條　信彦（弘前大学人文社会科学部　准教授）
〔講演４〕お坊さんの学問のヒミツ—何をどのように勉強していたのか—
渡辺麻里子（弘前大学人文社会科学部　教授）
〔特別講演〕津軽海峡、リンゴと太宰治—青森と南国台湾の繋がり—
特別講演　張　　文薫（台湾大学　文学部　副教授）

英文学が専門の畑中教員は、ジェイン・エアの作者を論じ、日本思想史が専門の原克昭教員は、日本中世の占いの世界を紹介し、中世における天寿の計算を実演した。考古学が専門の上條教員は、北日本の縄文文化について、最新の研究で明らかになってきたことを紹介し、仏教文学が専門の渡辺教員は、僧侶の学問について、その内容と方法を解説した。特別講演の台湾大学の張文薫先生は、台湾からみた日本について、特に青森のリンゴや太宰治の話題からその日本文化や日本文学への関心の高さを紹介し、台湾における日本文学研究の実情にまで話が及んだ。専門性が高い内容でありながら、多岐に渡る話題、多くの事例によって、会場は引き込まれ、来場者は最後まで熱心に聞き入っていた。台湾から青森がどのように見えているのか、全く知らないことばかりで、様々な発見があった。講演の後は、質疑の時間もとり、様々な質疑が交わされた。

講演の来場者には、公開講座当日に資料集を配布し、津軽・日本、世界各地の文化や歴史に関する知識を広くお伝えした。

３. 事業の成果

今年で７年目となる国際公開講座の開催であるが、年々、文化の日の国際公開講座が市民に浸透していっている様子で、参加者が増えていることは大変喜ばしいことである。以下、参加者133名のうち、記入いただいた71枚のアンケート結果から、今回の講座の効果を考えてみたい。

アンケート71枚の年齢分布であるが、10代が18名、20代が８名、30代が１名、40代が２名、50代が６名、60代が18名、70代が16名、80代が２名であった。参加者全体の数が増えていることに加えて、若い世代の聴講が増えていることは注目される。特に高校生の増加は、学問の方法や内容が多岐に渡ることを知ることによって視野を広げることにつながり、また地域や文化への理解を深めることとなり、大変喜ばしいことに思える。

また満足度について、大変有意義であった・有意義であった・普通・あまり勉強にならなかった・全く勉強にならなかった、の五択では、「大変有意義であった」が45名、「有意義であった」が19名、「普通」が３名、記入無しが４名となっていて、概ね、有意義であったと感じていただけたようである。その他、具体的に以下のような感想が寄せられた。

「毎年文化の日を楽しみに弘前大学の催しに伺って来ました。さまざまなテーマをより深く公開講座として下さっていることに深い感慨を持って受講させていただきました」（60代女性）、「文化の日に人文学に触れるという、とてもよい機会を作って下さりありがとうございました」（60代男性）、「自分になじみがなかった分野についての話や、青森に関する話をたくさん聞くことができ、大変興味深かった」（20代）、「日常生活において考えることのないテーマについて、考える機会を下さりありがとうございました」（70代）などというコメントである。また、「地元の大学が国際的な講座を一般に公開してくれることを

大変うれしく思います」(70 代男性) といった大学への期待や、「とても勉強になりました。今回学んだ内容を今後の学習にいかし、さらに学びを深めて行きたいです」(10 代) と、若い世代への影響もあったのは嬉しい結果であった。

台湾の研究者の講演についても「青森と台湾のつながりがとても深いことを初めて知りました」(30 代女性)、「台湾の人たちが意外と青森のことや日本文学に関心を持っているようで非常に驚きました。もっと青森の良さや日本の良さを、諸外国の方に知ってもらいたいと思いました」(10 代女性) などと、海外への関心も高まったようである。

また年に一度の開催に対して「半年に一度やってほしい」(60 代男性)、各講演 50 分について「各々の講演、全て内容が濃く、とても 50 分では語りつくせないと感じました。可能でしたら時間を長くしていただけると」(50 代女性) などのリクエストも寄せられた。

テーマの設定やプログラム、時間などについては様々なご要望が寄せられているので、それらについては鋭意検討し、より良い講座にしていけるように考えていきたい。

なお、公益財団法人青森学術文化振興財団の助成であることは、ポスターチラシと、当日配布した資料集に明記した。資料集は「資料も充実していて、ゆっくり読んでみようと思いました」(60 代女性) など、振り返りにも活用されている様子である。

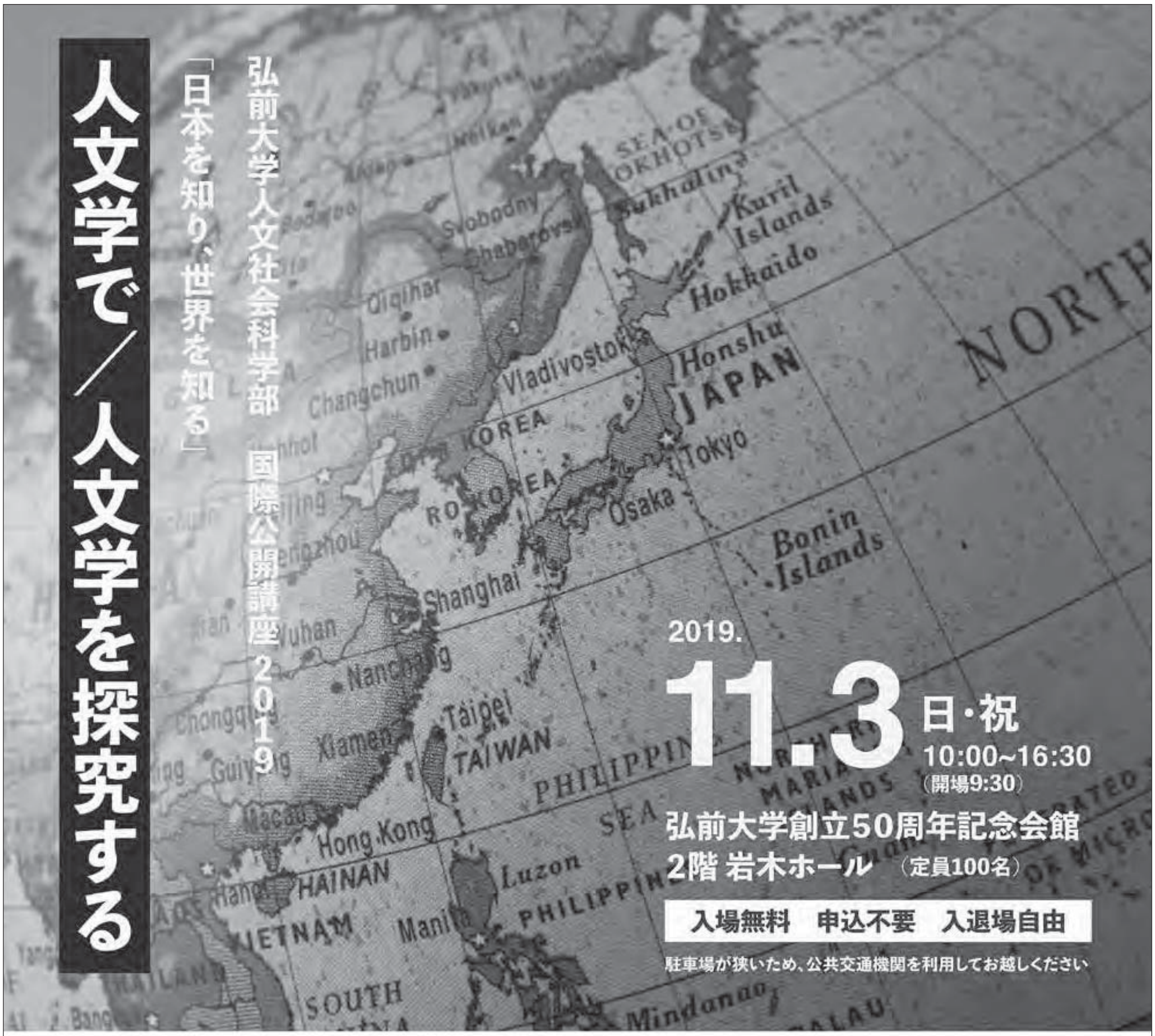
4. お わ り に

今年も講座を開催してみて、市民の皆様から多くの期待を寄せられていることを感じる。弘前大学は地域の大学として、研究を進め発展させる一方で、地域の皆様にその成果を還元していきたいと考えている。とかく「人文学」は、役に立つ学問なのかと社会に問われているが、そうした疑念は、研究内容がなかなか一般に見えにくい実情によっているように思う。こうして市民の皆さんに大学にお越しいただき、具体的に専門の研究者が、最先端の研究をわかりやすく解説する場を設けると、直接話を聞くことによって、学問はぐっと身近なものに感じられると思う。毎年、「このような企画があることを初めて知った」という声も聞くので、一層の周知宣伝に励み、一人でも多くの興味のある方にお越しいただけるように、また、人文学に興味を持ってもらえるように努力していきたいと考えている。

さらに言えば、弘前大学人文社会科学部が、地域の人文学の中核となり、様々な人をつないでいける機関となれるよう、今後も努力していきたい。

〈配付資料〉

『弘前大学人文社会科学部国際公開講座 2019「日本を知り，世界を知る」
「人文学で／人文学を探求する」国際公開講座資料集』2019 年 11 月 3 日発行　1-64 頁



プログラム

特別講演 津軽海峡、リンゴと太宰治
—青森と南国台湾の繋がり—

台湾大学 文学部 副教授 **張 文薫** 先生

■弘前大学人文社会科学部教員による講演

講演1 『ジェイン・エア』の「著者」は誰？
弘前大学 人文社会科学部 講師 畑中 杏美

講演2 日本中世の〈うらない・まじない〉世界
—天寿は占えるのか?!—
弘前大学 人文社会科学部 准教授 原 克昭

講演3 北日本の縄文文化を深く知ろう
弘前大学 人文社会科学部 准教授 上條 信彦

講演4 お坊さんの学問のヒミツ
—何をどのように勉強していたのか—
弘前大学 人文社会科学部 教授 渡辺 麻里子

文化の日は、弘前大学へ行こう！

文化の日に、津軽や日本そして世界の文化や歴史を、楽しく学んでみませんか？ 人文学研究の最先端を、わかりやすくお伝えします。関心のある方はどなたでも、お気軽にご来場下さい。

主催 弘前大学人文社会科学部
弘前大学人文社会科学部 地域未来創生センター

後援 青森県 弘前市 東奥日報社 陸奥新報社
NHK青森放送局 RAB青森放送 ATV青森テレビ ABA青森朝日放送

問い合わせ先 弘前大学人文社会科学部総務グループ（福士）
住所：〒036-8560 弘前市文京町1番地
電話：0172-39-3192（直）
メール：jm3192@hirosaki-u.ac.jp

公益財団法人青森学術文化振興財団助成事業対象事業

弘前大学　地域未来創生センター
Innovative Regional Research Center

スケジュール

総合司会　弘前大学 人文社会科学部　講師　**片岡 太郎**

10:00～10:10
開会の辞
弘前大学 人文社会科学部 地域未来創生センター　センター長　**李　永俊**

10:10～11:00
講演1　**『ジェイン・エア』の「著者」は誰？**
弘前大学　人文社会科学部　講師　**畑中 杏美**

11:10～12:00
講演2　**日本中世の〈うらない・まじない〉世界**
―天寿は占えるのか?!―
弘前大学　人文社会科学部 准教授　**原　克昭**

13:00～13:50
講演3　**北日本の縄文文化を深く知ろう**
弘前大学　人文社会科学部 准教授　**上條 信彦**

14:00～14:50
講演4　**お坊さんの学問のヒミツ**
―何をどのように勉強していたのか―
弘前大学　人文社会科学部 教授　**渡辺　麻里子**

15:00～16:20
特別講演　【使用言語 日本語】
津軽海峡、リンゴと太宰治
―青森と南国台湾の繋がり―
台湾大学 文学部 台湾文学研究所　副教授　**張　文　薫** 先生

16:20～16:30
閉会の辞
弘前大学 人文社会科学部 地域未来創生センター　副センター長　**渡辺　麻里子**

特別講演　講師紹介

津軽海峡、リンゴと太宰治
―青森と南国台湾の繋がり―

台湾大学　文学部
台湾文学研究所　副教授

ちょう　ぶんくん
張　文薫 先生

専門は戦前期東アジア文学。日本語で発表された代表的な業績に、「台湾文学における魯迅―「孔乙己」と郭松棻「雪盲」」（『越境する中国文学―新たな冒険を求めて』東方書店、2018年）、「語った「自己」―皇民化運動期における在台日本人の主体性」（『社藝堂 Journal of Social Aesthetics』社会芸術学会、2017年）、「帝国アカデミーの「知」と1940年代台湾文学の成立―『台大文学』と「東洋学」を中心に」（『日本台湾学会報』第14号、2012年）などがある。ご講演では、歌謡曲の「津軽海峡・冬景色」と農産物のリンゴが、青森に対して台湾人が抱く印象にいかなる土台を作ったか、そして太宰治文学の翻訳紹介がどのようになされたかという観点から、北国青森と南国台湾との繋がりについて、わかりやすく解説していただきます。

講演1
『ジェイン・エア』の「著者」は誰？

弘前大学 人文社会科学部　講師
はたなか　あずみ
畑中　杏美

東京都出身。専門は英文学、イギリス小説。近年の業績に、「「新しい時代」の老齢?―18 世紀イギリス小説における老齢についての一考察」（『山梨国際研究』第 14 号、2019 年）、「ミュリエル・スパーク『死を忘れるな』における 1950 年代と高齢者問題」（『山梨国際研究』第 13 号、2018 年）などがある。

講演2
日本中世の〈うらない・まじない〉世界
―天寿は占えるのか?!―

弘前大学 人文社会科学部　准教授
はら　かつあき
原　克昭

愛知県出身。専門は日本思想史。代表的な業績に、著書『中世日本紀論考―註釈の思想史』（法藏館、2012年）、編著『宗教文芸の言説と環境』（笠間書院、シリーズ日本文学の展望を拓く3、2017年）、共編著『習合神道』（(財)神道大系編纂会、続神道大系・論説編、2006年）などがある。

講演3
北日本の縄文文化を深く知ろう

弘前大学 人文社会科学部　准教授
かみじょう　のぶひこ
上條　信彦

長野県出身。専門は日本考古学、先史学。主な業績は、『縄文時代における脱殻・粉砕技術の研究』（六一書房、2015年）、『岩木山麓における弥生時代前半期の研究』（弘前大学北日本考古学研究センター、2019年）など。日本考古学協会 奨励賞（2017年）、青森県考古学会 村越潔賞（2014年）を受賞している。

講演4
お坊さんの学問のヒミツ
―何をどのように勉強していたのか―

弘前大学 人文社会科学部　教授
わたなべ　まりこ
渡辺　麻里子

千葉県出身。専門は日本中世文学（説話文学、仏教文学）、日本仏教、文献資料学。主な業績に、「談義所における聖教と談義書の生成」（『学芸と文芸』竹林舎、2016年）、「学僧の教育」（『文学・語学』第209号、2014年）、「天台仏教と古典文学」（『天台学探尋』法藏館、2014年）などがある。